

岩手郡医報

平成3年4月 No.32

編集 発行

岩手郡医師会

題字 零石町高橋孝先生



早春の零石スキー場より岩手山を望む

過日（3月2日、3日）のワールドカップ女子アルペンスキー大会の悪天候は嘘のように一点の雲もなく晴れわたり、日頃の診療を忘れ、楽しい一日をすごした時のひとこま。 （上原記）

目 次

早春の零石スキー場より岩手山を望む	1
平成3年度郡医師会通常総会	2
会長挨拶	3
部会報告	4～9
県民健康講座（滝沢会場）アンケート	6～7
平成3年度郡医師会事業計画	9
平成3年度一般会計予算書	10
平成3年度休祭日当番医予算書	11
特別講演	講師 金野宏太郎先生 12
第3回岩手郡学校保健、安全給食研究会	13
おらほの先生	高橋医院の巻 14
隨想「竹」	高橋 孝 15
新入会員紹介、退会	16
編集後記	16

平成3年 岩手郡医師会通常総会

▼ 岩手郡医師会通常総会次第
日時：平成3年3月2日(土) 午後3:20

場所：盛岡市大通り ホテル東日本

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 出席会員資格確認
5. 各部会からの報告
 - ① 福祉担当 ② 学校医部会 ③ 労災部会 ④ 勤務医部会 ⑤ 生涯教育委員会 ⑥ 健康教育委員会 ⑦ 保険

問題協議会 ⑧ 広報委員会 ⑨ 産業医部会 ⑩ 国保審査会より

6. 議事
 - 第一号議案 平成3年度岩手郡医師会事業計画について
 - 第二号議案 平成3年度岩手郡医師会一般会計予算案について
 - 第三号議案 平成3年度岩手郡医師会休祭日当番医予算案について
7. その他
8. 閉会の辞

I 開会の辞

佐藤郁郎副会長により開会は午後3時20分に宣言された。

II 会長挨拶

高橋牧之介会長の御挨拶はいつも感服しながら拝聴するのですが、巾広い観点に立ち、深い知識で我々会員に国際問題や医政問題を理解しやすく説明され、更に我々会員各自の医師会員としての自覚と発奮を惹起するものでした。(別掲)

III 議長選出

根本忠夫先生の推薦により葛巻町の西島康之先生に決定。

IV 出席会員資格確認

出席者 24名

委任状 21通 合計45名の出席で、全会員数59名のうち½以上の出席があり、総会は成立。

V 各部会からの報告

1. 福祉担当…高橋会長より

県医野球大会、海づり大会等各種大会へ積極的参加がみられた。
7月には岩手山登山が行われた。

新年度の県医野球大会は岩手郡医師会の担当により8月25日(日)平石町で行われるので、全会員の協力を希望する。

今シーズン(91年1月～2月)の県医スキー大会は中止。

2. 学校医部会…高橋孝副会長より別記の通り

3. 労災部会…及川忠人理事より

別記の通り

4. 勤務医部会…佐藤郁郎副会長より

別記の通り

5. 生涯教育委員会…上田靖彦副会長より

別記の通り

6. 健康教育委員会…八角正司理事より

別記の通り

7. 保険問題協議会…高橋牧之介会長より

今年度は岩手郡が監査対象になっていること。レセプトの保険者よりの返戻が多いので、病名等事務的な点での間違いに注意のこと。

8. 広報委員…高橋牧之介会長より

嶋理事(欠席)の伝言を通達

9. 産業医部会…西島康之理事より

別記の通り

10. 国保審査会より…上田靖彦副会長より

別記の通り

VI 議事

第一号議案

平成3年度岩手郡医師会事業計画について

第二号議案

平成3年度岩手郡医師会一般会計予算案について

第三号議案

平成3年度岩手郡医師会休祭日当番医予算案について

以上別記の通り

全議案とも満場一致で承認された。

VII 閉会の辞…上田靖彦副会長

午後4時45分閉会

会長挨拶

高橋 牧之介

本日はご多忙中のところ通常総会にお集まりくださいまして有難うございます。

まずは、会員の先生方の本年も健やかにご活躍下さることをお祈りいたします。

毎年2月は、翌年度の予算案件の協議を願っておりますが、今年は東北医師会連合会のスポーツ医学講習会が4日間にわたりましたし、その他医師会行事が重なったため今日の総会となりました。

この頃は、情報化システムの進歩に伴い医師会の業務も多様化して、忙しさが増してまいりました。このようなことに対して役員各自が業務分担を精力的に消化しなければならない現状です。これから国及び県の施策が次々と出てくることは確実でありますので、これに応じた各都市医師会の業務も更に多忙となることは疑いありません。連携をたずさえよろしく協力下さることをお願いします。

1991年、干支でいえば「かのと・羊」この年は歴史的にその後の国の動向を左右する大きな事件が起きた年だそうで、年回り論議が盛んだそうです。

ここ1年、ソ連のペレストロイカ、東欧の自由化、ベルリンの壁の崩壊と統一ドイツの誕生、さらにイラクのクウェイト侵攻と湾岸の停戦、目まぐるしく世界情勢は変転しております。歴史の大きな流れにも干支というリズムがあるのかもしれません。

ひるがえって、医療もまた転換期に直面していることは世界的規模で同様であります。先進諸国は高齢社会を迎え、医療費の増大に対応するための財源確保に苦慮しております。この頃の医療目標であるQOLの向上にあたっては医療の公的統制を強めるか、規制緩和を拡大すべきか、第3の道をつくるべきか大きな岐路に立たされていることは間違いない。

医療界の先ゆきはどうなるのか、当面する課題は多々あると思います。

数年前からいわれてました90年決戦ですが、

第2次医療法改定の国会審議も予想外の重要な案件が多いので先送りの可能性が強く、内外の情勢如何によって医療界への風当たりが変わってくると考えられます。吉とでてくれれば良いが。

医療法改正の主な点は、医療の理念の明確化、施設機能の体系化、外部委託の規則、医療法人の業務範囲、広小規制の見直し、診療科名の表示等で、種々の憶測はありますが、この医療法改正も宙吊り状態で湾岸問題処理をめぐる国会審議の難航が予想されますので、今国会での成立はとても無理だと思います。

また、老人保健制度改革案、救急医療制度関連法案等も予定されています。老健法改革案は今年の7月実施を目指し公費負担の増額と共に、患者の一部負担引き上げ、訪問看護療養費制度を創設するものである。

昨年4月、診療報酬の改定が行われました。実質1.3%アップとしているが、医療経営はダウンする一方であります。人件費、週休2日制、従業員確保等、他の産業が軒並み好況だけに深刻な問題となっています。来年4月予定の診療報酬改定のときは、医療従事者の厚遇、人事院勧告の運動が可能な見直しが期待されるものであってほしいと思います。

63年3月公示された岩手県保健医療計画は、本年見直しの時期になっており、一方、二次医療圏に於ける同計画の整備がすすめられ、12月に盛岡保健医療計画が策定されました。地域医師会の主導性を問われるだけに十分意見を検討調整して対処しなければなりません。

本年も会員の先生方との密なる連携をもちながら、地域医療のコーディネーターの役割を果たすべく医師会の活性化を図ることに努力しなければと考えます。

ご指導、協力の程宜しくお願い申し上げます。

部 会 報 告

○学校医部会

高橋 孝 副会長

平成3年1月20日に行われた第2回岩手県医師会学校医部会幹事会において決定された平成3年度事業計画は次の通りであります。

- (1) 岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 学校保健関係団体との連携
- (4) 小児成人病対策委員会の設置
- (5) 児童生徒の今日的問題の検討
(精神衛生、思春期、スポーツ等)

以上でありますが、平成3年3月2日に行われました岩手郡医師会通常総会において高橋会長も申しておりましたが、県医事業計画(1)に関連して岩手県学校保健、学校医大会に今年度は是非演題を出して発表したいものと考えますので、どなたか発表をお願い致します。又県医事業計画(2)(3)(4)(5)すべてに関連する事ですが、岩手郡は広い地域でもあり学校医部会活動も町村の経営状況又価値感の違いもあり一律に進める事が出来ませんので各町村学校保健活動の情報の交換の場として又、学術研鑽の場として各町村に学校保健会と言う組織を作り活動をして参りましたが、岩手郡は、岩手県では初めて郡を抱括した更にその上に岩手郡学校保健会を設立して岩手郡医師会長が会長を務めております。この学校保健会は医師会員はもとより教育委員会、養護教諭、校長、教育事務所等と連携をとりながら活動をしております。この町村学校保健会、郡学校保健会を育てる事が私共医師会にとっても学童一人一人について良く知る事が出来る事、又一方予防医学等の知識を学童、父兄への伝達の手段として大変大切な位置にあるも

のと考えております。町村の医師会員が全て学校医である事が理想ですが我々は常に学童に接し、特に最近は成人病予備軍とさえ言われている現状を考えると、学校医であってもなくても各町村において先生方は必ずこの各町村学校保健会に参加し、検診計画の作成、検診結果の分析、事後指導又、予防活動に参加していただきたいと思います。これが私共医師会が考えております小児成人病予防、又精神衛生、思春期、スポーツ等様々な問題を解決するために学校現場への一つの大きな働きかけのパイプでありますので、医師会員皆様の参加をお願いします。これについては各町村の学校保健会にも申し入れてありますので医師会員の先生達からもアプローチしてみて下さい。

尚、岩手郡医師会学校医部会の平成2年度の活動報告は近々、いわて医報に掲載される事と思いますのでお読みいただきたいと思います。

○労災部会

及川忠人 理事

第1回の労災部会幹事会は平成2年11月1日に開催され、主として労災保険情報センターおよび自賠責診療基準についての検討が成され、各県の動向も合わせて協議することが了承された。

第2回の労災部会幹事会は平成3年2月27日に開催され、1月24日に日医で開催された都道府県医師会、労災自賠責保険理事連絡会での協議内容について報告説明が成され、各県の進行状況をふまえて、県医師会も対応する方向が認められた。

○勤務医部会

佐藤郁郎 副会長

H 2. 7. 7

県医師会館にて第51回幹事会

H 2. 10. 6

釜石共栄会館にて第52回幹事会並びに釜
石医師会地区勤務医部会懇談会
議題：釜石地区一次二次救急医療体制

H 3. 2. 9

北上プラザホテルにて第53回幹事会並び
に和賀医師会地区勤務医部会懇談会
議題：病診連携について

H 3. 3. 16

県医師会館：第54回幹事会並びに平成 2
年度第13回岩手県医師会勤務医部会総会。
特別講演

1. 開放創の処置…救急初療から創閉鎖
まで

岩手県高次救急センター講師

菊地正知 先生

2. 岩手の県立病院における勤務医活動
—その歴史と展望—

県立中央病院 臨床検査科長

石崎 敬 先生

○岩手県医師会生涯教育委員会

上田靖彦 副会長

委員会は平成 3 年 3 月 20 日午後 3 時から県
医師会館で開催された。主なる議題は
・日本医師会生涯教育制度は、これからは認
定医、専門医、産業医等の制度化にからむ
ので各郡では医師会員が生涯教育申告書を
必ず出すようにすること。

・平成 3 年度「日本医師会生涯教育制度」
実施方針

1) 期間は平成 3 年 4 月 1 日から平成 4 年
3 月 31 日までの 1 年間とする。

2) 対象は、日本医師会全会員とする。

3) 学習内容の方法・形式分類は、1. 体験
学習。2. 自宅学習。3. グループ学習。
4. 講習会。5. 学会。6. その他とする。

4) 学習の評価基準は、自己申告による 1
年間 50 時間以上の学習時間とする。

5) 「日本医師会生涯教育講座」の受講に
ついては、会員に対して積極的に勧奨
する。

6) 生涯教育の重要な柱である病診連携に
ついては体験学習を中心としてより一
層推進するよう努める。

7) 生涯教育修了証は、申告書提出者のう
ち、上記の評価基準を満たした者に対
して発行する。

付記：学習時間記録のため、平成 3 年度
「学習時間記録メモ」は、日本医師会
雑誌平成 3 年 3 月 1 日号の付録として
配付し、「平成 3 年度生涯教育申告書」
は、平成 4 年 3 月 15 日号に綴じ込むこ
ととする。

日本医師会生涯教育委員会では、生
涯教育を充実・発展させるため、「日
本医師会生涯教育カリキュラム」の検
討を行っているところであり、平成 3
年度内にカリキュラムを都道府県医師
会に提示する予定である。

・生涯教育新制度における修了証および認
定証発行

1) 年間の学習時間（ただし 50 時間を超
えた場合）については従来どおり自己申
告書に基づいて修了証を発行する。

2) 3 年以上で、日本医師会生涯教育講座
等の履修が 30 単位以上、かつ自宅学習
その他の学習時間が 120 時間以上に達
した場合は、都道府県医師会長が履修
証明を行い、日本医師会が認定証を発
行する。

○健康教育委員会

八角正司 理事

平成2年度岩手県民健康講座が、平成3年1月18日から2月8日まで、4回に亘り、滝沢村役場大会議室にて行われ、受講者は145名の盛会であった。

高橋牧之介会長の挨拶に始まり、盛岡保健所長牟岐梧楼先生、同大坂茂子保健婦長、村内からは、棚内秀彦先生、田村公一先生、土井尻健一先生、山田わか子先生、主浜清保健課長が、その他に松尾村から及川忠人先生、玉山村から岡本彰先生、私八角が講師となり参加した。

滝沢村保健課、盛岡保健所の関係者の方々のご尽力により予定どおり、終始円滑に運営された。平成3年度は、葛巻町で行われる予定。

平成2年度県民健康講座（滝沢会場）

アンケート結果の集計について

高橋牧之介

1. 受講者の状況と傾向

(1) 性別、年令、職業について

受講者の81.1%が女性である。年令別に見ると50～59才代が29.8%で60～69才代が44.7%と最も多い。平均年齢男67歳、女55歳である。

職業は主婦が39.1%と最も多く、無職26.1%、農林業が25.0%の順となる。

(2) 受講者の健康に対する意識

受講者の87.2%が日々健康に注意していると答え、健康に対する意識の高さが見られた。

2. 受講者の講座に対する感想等

(1) 開催時期、日数、時間配分について

時期、日数、時間とも今まで良いという回答が多く、1教科の時間は45分～1時間が多い。

(2) 会場・設備について

会場設備については73.8%が大変良かった、声が聞こえない、交通の便等の意見があった。

(3) 内容および方法

受講者の89.9%が講座に参加してみて有意義であったと答え、講座で得た知識が日常生活または地域において役立たせたいという意見が多かった。今後特に加えてもらいたいという科目は、心の健康、家庭介護、応急処置、食生活改善、様々な病気の治療・予防等であった。

(4) その他

77.9%の人が今後も出席したいと答え、内容によっては出席するが22.1%あった。また講座の終了者の組織化については、組織してほしいと答えたものが30.6%で、69.5%はそこまで考えていないという答えであった。

講座が開かれることを何で知ったかについては87.5%が市町村の広報によると答えている。

・受講者の状況

	男	女	計
受 講 者	26	124	150
修 了 者	20	94	114
アンケート提出者	18	78	96

・この講座が開かれることを何で知ったか

	人 数	%
知 人 か ら	3	3.1
役 場 か ら	7	7.3
テ レ ビ ・ ラ ジ オ	2	2.1
市 町 村 の 広 報	84	87.5
計	96	100.0

・募集方法

	人 数	%
今までよい	54	61.4
もっとPRが必要	34	38.6
計	88	100.0

・スライドの使用について

	人 数	%
講義がわかりやすくなる	66	71.7
暗いのでノートをとる時間を考慮してほしい	20	21.7
特に必要ない	6	6.6
計	92	100.0

・開催時期について

	人 数	%
今までよい(1月~3月)	65	70.7
4月~6月	22	23.9
7月~9月	5	5.4
計	92	100.0

・講座の時間帯について

	日 数	%
午前中	18	19.5
午後(1時~5時)	71	77.2
午後(5時~9時)	3	3.3
計	92	100.0

・会場・設備について (複数回答)

	日 数	%
大変よかったです	79	73.8
狭すぎる	5	4.7
暑い	4	3.7
声が聞こえない	8	7.5
交通が不便だ	11	10.3
計	107	100.0

・テキストの使用について

	日 数	%
くわしいテキストがあった方がよい	32	34.8
要旨のわかる程度でよい	57	62.0
必要ない	3	3.2
計	92	100.0

・講座についての感想

	人 数	%
よく理解できた	30	33.7
まあまあだった	50	56.2
難しくてよく理解できなかった	5	5.6
もう少し程度を高くした方がよい	4	4.5
計	89	100.0

・日常生活に役立つと思うか

	人 数	%
非常に役に立つ	67	72.8
まあまあである	24	26.1
あまり役に立たない	1	11.1
計	92	100.0

・今後特に加えた方がよいと思う教科は(複数回答)

	人 数	%
様々な病気の予防、治癒に関するもの	31	18.3
家庭介護の応急処置等に関するもの	33	22.5
心の健康(ストレス、ノイローゼ、ボケ、症状など)	59	34.9
食生活改善などの栄養に関するもの	36	21.3
歯科衛生に関するもの	5	3.0
計	169	100.0

○広報委員会

嶋 信 理事

〔編集方針〕

日頃、年に数回しか発行しておりませんが『岩手郡医報』に目を通していた正在いるでしょうか。県医師会発行の『いわて医報』についてはいかがでしょうか。

・速報性からいえば『いわて医報』も以前に比べ、かなりニュースが速くなっています。これらを詳しく見ていただければ記事の重複は避けられると考え『岩手郡医報』は当医師会内の部分を重点的にとらえようと努めている。よって速報性に重きをおくではなく、記録性に重点をおいて不定期刊行（3～4ヶ月に1回）である。

- ・県医師会よりの伝達などは殆んど「いわて医報」で十分であり、郡医師会内の行事などをできるだけ不参加者にも伝達できればと考えている。
- ・各支部内で行われている研究会、講演会などの様子は各支部の編集担当者が報告していただければ幸いですが、仲々報告がないのが現状である。
- ・郡医師会の行事、講演会についてできるだけ参加できなかった人にも内容の一部でも紹介できればと思っています。

今回参加できなくとも次回には多くの方々の参加を期待しているつもりです。

・「随想」について

日頃考えていることや最近あったこと、これからこんなことをやってみたいという希望や旅の思い出など…思いつくままつづっていただければと思います。

・「お知らせ」について

行事予定とか郡医報発行に合わせて連絡事項などを掲載しています。

岩手郡医報のあらましを述べましたが何せ原稿が少なく、併せて印刷所の人手不足（？）依頼してからも約3週間～1ヶ月前後の日数を要するため毎月の発行は無理であり、行事に併せてできるだけ急がせて発行にこぎつけています。

○産業医部会

西島康之 理事

1. 平成3年度産業医部会事業計画が産業医部会理事会で決定しました。
(平成3年1月19日県医師会館)
 - (1) 産業医活動の充実と産業医の地位向上
 - (2) 産業医研修事業の推進
 - (3) 日医認定産業医研修の促進
 - (4) 小規模事業場における産業医活動の促進
 - (5) 産業保健連絡協議会の運営
 - (6) 産業医名簿定期刊行及び手引きの改訂
2. 平成2年度の認定産業医資格に係わる産業医部会活動の概略
 - (1) 産業医基礎（前期）研修会
会場…県医師会館4Fホール
第1回…平成2年7月28日（土）
PM 2:30 出席者280名
労働基準局、県医師会、産業医部会の5人の講師による講義が行われ、産業医認定の5単位が付与された。
 - 第2回…平成2年10月20日 PM 2:30
出席者202名
労働基準局、県医師会、産業医部会の4人の講師による講義並びに映画「産業医と安全衛生委員会」による研修が行われた。（5単位付与）
 - 第3回…平成3年1月12日（土）
PM 2:30 出席者80名
労働基準局、県医師会、産業医部会の4人の講師による講義並びに映画「健康診断と産業医の役割」による研修が行われた。（5単位付与）
- (2) 産業医基礎実地研修会
 - 第1回…平成2年7月21日（土）
PM 3:00 出席者数270名
日本アイソートープ協会滝沢研究所
日医認定の実地研修（3単位付与）
 - 第2回…平成2年11月24日（土）
PM 3:00 出席者数147名
玉山村済民盛岡工業団地（3単位付与）

その他 毎年日本医師会が認定医取得のため講習会を開催しています。平成2年度は6月28日～30日の3日間、産業医講習会（第22回）が日本医師会館において、平成3年2月2日～3日東北ブロック産業医基礎研修会が仙台市青年文化センターで行われました。職場の産業医に携わっておられる先生方の認定医資格取得が望まれておりますので多数の研修会参加を望む次第です。

付 認定産業医について県医師会からすでに先生方の手元に届いてあるフローチャートを参照していただければおわかりになると思いますが、取得する条件がそれぞれの先生方により3段階別になっております。確かなことは、岩手県医師会産業医部会に御相談下さい。

○岩手県国保審査研究会報告

日時：平成3年3月22日 午後1時半
担当 上田靖彦 副会長

① 平成3年3月19日付厚生省より「注腸造影におけるスポット撮影について、真

に必要と思われる場合は認めてよろしい」との報告がありましたので今後は必要と思われるものには認めてよろしいです。

- ② M R S A 腸炎に現在保険で認められている有効薬がなく、塩酸パンコマイシンが唯一有効ですが、まだ保険が通っていません。M R S A 腸炎の激症で生命の予後が悪いことを考え、社保・国保審査会の申合せ事項として当分の間認めることとしましたので、お含みおき下さい。
- ③ 腫瘍マーカーの検査は、強く癌と疑われる場合に認められるものであり、癌の疑い傷病名であっても傷病名欄に御記入ください。
- ④ エルシトニン注10単位の適応は骨粗鬆症における疼痛となっております。通常は1ヶ月位の使用で疼痛がとれるとされておりますが、一応3ヶ月を限度として使用を認めております。疼痛再発により再度使用した場合は、その旨御記入ください。

第一号議案

平成3年度岩手県医師会事業計画

二十一世紀に向けた医学医療の動向は、余りにも急激な進歩に、倫理や思想がついて行けないという率直な不安が残る。

平成三年を迎える、厚生施設は第二次医療法改正による、新しい医療計画の在り方、高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略の実施と国民健康保険法の改正、老人保健法の改正等医療保障を左右する重要関連法の改正が予想される。

現在わが国は世界一の長寿社会となり、保健医療、福祉の総合的展開を図るべく国民医療体制の創造に向かい進んでいる。

このことは医師会が当面する大きな課題であり、諸施設が縦割り行政の独り歩きにならぬよう積極的提言を行い、医師会主導を確立

しなければならない。そのためにも当医師会は医の大義を守り、地域住民の健康確保のため全会員の理解と協力の下に、愛情と信念をもって、医師としての責務に努力するものとする。

- 次の事項を重点事項とする。
1. 医の倫理の高揚と医療秩序の確立
 2. 県医師会の事業への全面協力
 3. 有効なる地域医療活動の展開
 4. 会員福祉制度の充実
 5. 保険医療の適正化
 6. 生涯教育の推進
 7. 医業経営改善と安定への努力
 8. 地域住民健康教育の充実
 9. 広報活動の積極的展開
 10. 医事紛争防止への対策強化

第二号議案

平成3年度・一般会計予算書

自 平成3年4月1日
至 平成4年3月31日

社団法人 岩手郡医師会

《1. 収入の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要		
繰 越 金	1,210,000	前年度より繰越		
会 費	4,085,000	A 会 員	3,420,000 (@95,000×36人)	
		B 会 員	665,000 (@35,000×19人)	
補 助 金	85,000	地 域 医 療	30,000	
		学 校 医	55,000	
雑 収 入	150,000	預 金 利 息		
合 計	5,530,000			

《2. 支出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要		
[事 業 費]	(4,870,000)			
会 議 費	2,000,000	総 会 2 回	1,000,000	
		理 事 会 6 回	700,000	
		役 員 会 2 回	200,000	
		県 医 総 会 費 1 回	100,000	
生 涯 教 育 費	550,000	医学講演会・懇談会	300,000	
		学校医研修会	100,000	
		スポーツ医学研修会	100,000	
		そ の 他	50,000	
地 域 保 健	400,000	各町村の地域保健懇談会	300,000	
		他都市との懇談会	100,000	
広 報 発 行 費	600,000	印 刷 費 6 回	400,000	
		発 送 費 6 回	70,000	
		編 集 会 議 費	70,000	
		雜 費	60,000	
旅 費	320,000			
交 際 費	650,000			
慶弔見舞金	100,000			
広 告 費	100,000			
雜 費	100,000			
予 備 費	50,000			
[事 務 費]	(660,000)			
事 務 費	660,000	事 務 連 絡 費	80,000	
		通 信 費	100,000	
		消 耗 品 費	100,000	
		印 刷 費	80,000	
		リ 一 ス 料	120,000	
		事 務 处 理 費	120,000	
		雜 費	60,000	
合 計	5,530,000			

第三号議案

平成3年度・休祭日当番医予算書

自 平成3年4月1日
至 平成4年3月31日

社団法人 岩手郡医師会

《1. 収入の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	638,000	前年度より繰越
補 助 金	3,504,000	
雑 収 入	8,000	預 金 利 息
合 計	4,150,000	

《2. 支出の部》

単位：円

科 目	金 額	摘 要
報 償 費	3,210,000	健 康 教 育 費 1,180,000 (@20,000×59人) 救 急 対 策 費 350,000 県 医 野 球 大 会 400,000 県 医 ゴ ル フ 大 会 100,000 県 医 海 釣 り 大 会 30,000 県 医 ス キ 一 大 会 30,000 県 医 围 棋 大 会 20,000 郡 学 校 保 健 会 300,000 合 同 研 修 費 600,000 厚 生 対 策 費 200,000
需 要 費	350,000	会 議 費 3 回 300,000 通 信 費・消 耗 品 費 50,000
旅 費	350,000	
役 務 費	90,000	三 支 部 60,000 通 信 費 30,000
予 備 費	150,000	
合 計	4,150,000	

特別講演



金野宏太郎先生

「南部藩における洋学導入と 明治初期の医学教育事情」

講師 岩手県医師会監事、岩手医史研究家

金野 宏太郎 先生

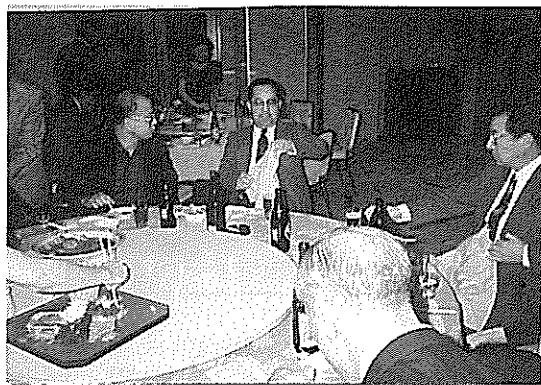
金野先生の御講演はゆっくり水を飲まれてから午後5時より開始された。先生は御趣味で岩手の医学史を研究されてることでしたが、我々会員が現在医師として活動するようになるまでの岩手の医学史を史学的にロジカルに理路整然と理解しやすく解説して下さいました。南部藩の教育は全国的にもそうであったように、寺小屋、藩学において武士を対象とする儒学から始まった。岩手県内の洋学は江戸初期の南蛮学から始まる。即ち水沢の後藤寿庵のキリスト教普及の副産物として

誕生し、その後江戸中期になり建部清庵と大槻玄沢が活躍した。幕末に至り、水沢の高野長英が蘭学の普及に努力された。盛岡には県南の洋学から約70年遅れて洋医八角宗律と製鉄の父大島高任により洋学が導入され御存知の日進堂が文久3年5月に創設された。これが南部藩の私立洋学校で教育内容が極めて斬新かつ実際的であった。八角宗律の明治まで続く種痘普及の功績、回生堂と三田俊次郎先生と現在の岩手医大に到るまでの南部藩を中心とする医学史を約1時間にわたり御講演された。

祝賀懇親会



郡医師会長より(左)八角正司先生(右)へ記念品授与



金野宏太郎先生と新入会員の伊藤昭治先生を囲んでの祝賀懇親会

午後6時15分より祝賀懇親会が開催された。祝賀会は宮杜亨先生の厚生大臣表彰（国民健康保険運営に尽力した功績が認められた）受賞と八角正司先生の岩手県教育委員会表彰（多年にわたり学校医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をされた）受賞を祝賀するもので会長より記念品が授与され、八角先生より謝辞があり

ました。御努力、御貢献ほんとうに御苦労様でした。続いて新入会員の伊藤昭治先生の御紹介がありました。伊藤先生は滝沢中央病院に御赴任されました。

会は金野先生の御参加をいただき約2時間にわたり楽しく、有意義に盛大に行われたことを御報告して通常総会の記録を終了致します。
(上原記)

第3回岩手郡学校保健、安全、給食研究大会



岩手郡学校保健安全給食研究大会で講演する及川忠人先生

平成2年度岩手郡学校保健、安全、給食研究大会は平成3年3月9日（土）PM 2:00より盛岡市上田公民館第一、第二和室において岩手郡内の町村教育委員会関係者、各町村小・中学校校長及び小・中学校養護教諭給食担当など多数参加して開催されました。

最近、成人病の若年化といわれるようになってその予防対策が急がれているところでもあり、本年度は『小児成人病について』を大きなテーマとして取りあげ、最初に西根病院院長上田靖彦先生により「成人病と食生活」についてのお話しを聞いたあと、東八幡平病院院長及川忠人先生による「成人病のあらまし」について具体的な内容についての講演があった。引き続き岩手町学校保健会（一方井中及川美代子さん）より「岩手町における学童成人病予防検診の結果について」発表があり、小学4年生及び中学1年生を対象とした調査で、町内の小・中学生は肥満度、総コレステロール値は他町村に比し、やや高値であった。でも実際に専門医の診察を受け、適切な処置を行っているのは全体の約2割弱で、意外と軽く考えており事後指導会でも成人病とは大人の病気と思っていたりしている人が多く、小・中学生の頃からの食生活への取り組みが大事であることを再認識させられる思いでしたと述べている。

葛巻町学校保健会（坂本桂子さん）より「食生活の効果的指導のあり方について」の発表があり、葛巻町内4年生以上の小学生83名、中学生64名を対象としての調査結果であり、酪農家の多い地区もあり、夕食が遅い

ためその間空腹を満たすため間食が多くなり、主なものはスナック菓子、せんべい、菓子パン、クッキーなどである。また、無機質（カルシウム、鉄分など）摂取が非常に少ない。それに加え酪農家が多い割には学校給食の牛乳以外にも家庭での牛乳或はその他の乳製品の摂取が非常に少ないとわかった。

これからの指導とりくみとしては間食のとり方については子供自身が自分の間食のとり方の問題点がわかり、体によい間食のとり方を理解して工夫できるようにすることと無機質摂取の重要性を考え積極的に無機質を多く含む食品を食べる意欲を持たせること。それと「家庭でも1日1本牛乳を飲もう」と牛乳の飲用を啓蒙していこうと訴えていた。

このあと参加者と学校医との間で意見の交換があり予定の時間に会を終了し、引き続き近くの岩手第一ホテルに会場を移して郡学校保健会会长の高橋牧之介先生の県教育長表彰の学校保健功労賞受賞祝賀会が行われた。



学校保健功労賞授賞祝賀会で挨拶する高橋牧之介会長

あらほの先生

おらほの先生は、髪はボサボサ、いつも裸足で、たまにズボンが下がっていたりするけど、おじいさんやおばあさんには絶対的人気のある、まさに「おらほの先生」という感じです。先頃、2月19日に満58才の誕生日を迎えた、婦長から、真っ赤なバラの花をプレゼントされて、鼻の下を伸ばしていました。診察中の先生と言えば、医師の仕事のみならず、「人権擁護委員」や「零石ライオンズクラブ会長」としての仕事も多忙で、患者さんを裸にしたまま、聴診器の代わりに電話の受話器を握り締めていることしばしば……。

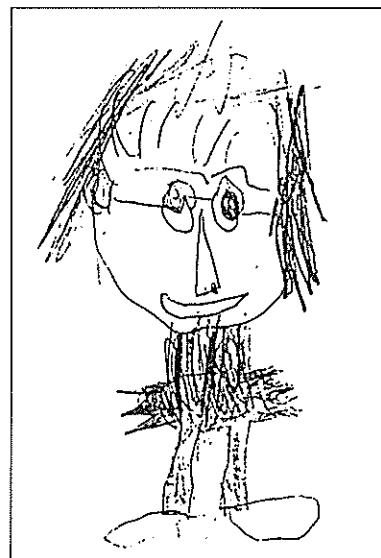
たまには診察中に患者さんを叱ったりすることもありますが、それは本当に患者さんの体を心配してのことと、いわば愛情の裏返しです。家庭での先生は、二人のお孫さんの良きおじいちゃんで、病気でもしようものなら、診察中に心配でたまらない様子です。私たち職員の子供達の事も「外孫だ」と言って病気の時は勿論、色々な面で相談に乗ってくれアドバイスをしてくれます。町内の先生方や医師会の会合等で、ちょっと飲みすぎた翌日等は、きまって大声で「メガネどこだ」と叫んでみたり、私達に用事を言いつける時、一度に2つ以上の事を言ったり……。これはいったい二日酔いの為でしょうか？できれば二次会には誘っていただきたい様、節にお願い申し上げます。先生の趣味は多彩で、歌は童謡から民謡までこなしますし、昨年の暮れ町のチャリティショーで、「長持歌」を熱唱し、又一段と株を上げた様です。そして奥様と共に楽しむある書道は、今や趣味の枠を越えるほど高橋医院をおびやかしています。

零石町 高橋医院の巻

診察室からいなくなったなあと思うと、自分のお部屋で筆をとっていたりすることたびたびで、そのかいあってか、はたまた持った生まれた才能か、毎年岩手日報百人展に選抜され、読売書法展連続入賞七回という成績を持っていらっしゃいます。最後に職員一同から先生に一言、外出の時背広にネクタイをしめたら必ず、くつ下を忘れない様お願いします。さらにもう一言、書道も大事ですが、「患者さんをお忘れなく」口の悪い私達ですが、これも皆先生のことを想っての事です。先生、これからもあまり怒る事なく、血圧を上げない様ご家族の為、患者さんの為頑張っていただきたいと思います。

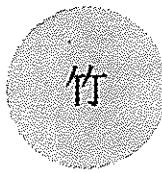
この絵は、患者さんの向井大輔君（現在中学3年生）が5才の頃に描いた作品で、先生が大事にしている絵です。

（高橋医院職員一同）



向井大輔君画 高橋先生

隨 想



零石町 高 橋 孝

「雪国」と言う言葉は、作家柳田國男氏が作った言葉だとか、「豪雪」と言う言葉は新潟で國に雪害を陳情するときに初めて作られた言葉だとか、又弥生時代の祖先達は雪があるために獸の足跡を見る事が出来たり、雪穴で暖をとったりで、雪は人類にとって有用との話を聞いたが、小さい頃和賀郡湯田町で育つと、雪かき、屋根からの雪下ろし等々、子供の頃はスキー、雪遊び以外に雪の恩恵等考えた事等なかった。小学校、高等科当時私の行動範囲は、せいぜい水沢、一関位であったが、一関あたりは雪が少なく、竹が自生しており、「アーアー背の高い竹が自生している所は雪が少なくて良い所だナァ」と子供心に考え、竹の生えている土地に住んでみたいと願望に似た気持ちを持った様に思う。以来未だ私は竹と言う植物に特別関心を持っている。竹はイネ科の植物との事、マダケ属、ササ属、アズマザサ属、等に分けられて私共が一番多く見るのは（山川辺にある）隈笹で秋になると葉の辺縁が枯れて白く変わる背の低い笹である。竹は建築材、家具から、マージャン牌、尺八、ザル、籠、又農具として今は見られなくなつたが、穀類のからやごみをふりわける箕等々、私共の生活の中に深くかかわりをもつてゐる。人間国宝の方達が作った花入れ等は数百万もあるものがあると言う。竹の子は又美味で、零石では隈笹の竹の子だが、温暖な所では孟宗竹の大きな竹の子がある。私は医大を卒業後まもなく県立世田米病院に数ヶ月トランクに行った事があるが、あの地には隈笹と孟宗竹との中間位の大きさの竹の子がありこれが一番おいしいと思った。今年は是非この竹の子の出る季節に訪ねたいと思ってゐる。又一方竹は竹を割った様な、竹に油を塗

る等人の様子を表わす言葉とか、竹に雀とか、竹に虎とか絵の描写に使つたり、誰でもが子供の頃には一度は聞いただろう平安初期の最古の物語と言われる「竹取物語」は、翁の心を通して私達に世の中の様々な撻や悲しみを教えてくれた。最近私は全日本水墨画会無鑑査で秋田県出身の女流水墨画家、白沢恵舟画伯とお逢いする事が出来て、お話しをしたのは数時間でしたが、墨で遊ぶ者として楽しい一時であった。画伯は水墨画の描法等の著書が多い方で筆法等になると大変熱が入りその話には私をぐんぐん引き入れるものがあった。特に竹の筆法描法等に入ると葉一枚一枚について、又茎部から葉先に至る用筆法等に神経を使う話等は大変興味深く時間を忘れて聞きいって参りました。水墨画については無知ですが、入門書等には早い所に竹の描法が出て来る様に思われる。筆の穂先をつき自然に力を入れてまた力を抜くと竹の葉が描かれる様に思うし、また逆筆で行っても竹の葉の形になる様に思われるが実際はもっともっと奥深い事を教えられました。その後白沢画伯の「風竹」と言う水墨画を観せられて、その風に吹かれる一枚一枚の葉の流れを觀て、画伯の女性としての繊細な絵心を知った様な気がしました。機会あってその後陸前高田の書家、佐藤永峰氏の家に伺い、韓国の水墨画家の竹と春蘭を觀ることが出来ましたが、この竹にはどこか大陸的な描法がある様に思われ、その描法も各々の国々の国民性にも違いがあるのだろうか。私共は竹とのかかわりが多く通常は何も感じないで暮らしていくても、周囲を見廻して見て下さい。襖の紙に竹の絵はありませんか？。

新入会員紹介

◎氏名：伊藤昭治先生（滝沢中央病院）

年齢：59才

出身地：盛岡市

出身校：岩手医科大学

診療科目：外科

勤務時期：平成3年2月1日

（昭和48年11月～平成3年1月

まで盛岡市内にて開業）

趣味：ゴルフ、フィギュア

[ひとこと] このたびは岩手郡医師会に入会させていただきありがとうございます。今後は会員としてはずかしからぬよう地域医療に頑張りたいと思います。皆様の御指導よろしく御願いします。

退会

- ・藤原 純 10月23日 国保葛巻病院より
- ・広岡鈴子 11月30日 東八幡平病院より
- ・大関潤一 12月31日 東八幡平病院より
- ・斯波明子 1月31日 滝沢中央病院より

編集後記

・弥生3月もあっという間に過ぎ去った感のあるこの頃、温暖な日々が続いて桜前線が北上しているという。今年も当地区は例年通りの花見頃であろうか。桜も咲き始めるとあっという間に葉桜になり、その間もっとも人通りの多い土曜日に雨など降ろうものなら公園の花見客はガタッと減ってしまうという。いい天候に恵まれればいいなあと思うのは皆さんのがいでしょうか。

・今回は3月初めに行われた郡医師会通常総会の模様を零石町の上原先生に締めていたいたものです。御多忙のところありがとうございます。また、各理事の先生方の報告記事どうもありがとうございます。

・今年度は県医師会行事として、8月25日（日）に県医師会親睦野球大会の担当医師会となっており、県内各地より集い来る各選手の受け入れ体制から、会場案内係、各球場（約8ヶ所位の予定）での世話係など各係所属の会員多数の御協力が必要と思われます。できるだけ多数の参加を御願いしたいと思います。

・「おらほの先生」には零石町高橋医院に登場していただきました。写真とかイラスト

などありましたら添えて下さいとお願いしたところ、先生は患者さんの向井大輔くん（現在は中学生）が幼少の頃、先生の似顔絵を書いてくれたものを大事に保管しておられ、これを提出してくれました。貴重な資料ありがとうございます。

・「隨想」についても高橋孝先生に書いていただきました。書道を愛するが故にいろいろと花鳥風月、自然にふれる機会も多く、興味も募るのかいままでの文章もとてもそれぞれ味わいがあって楽しみな筆致です。今後とも続けていただければ幸いです。

・郡内町村教育委員会、町村保健課（又は福祉課）、小・中学校長及び養護教諭、給食担当者、並びに学校医など多数の参加を得て行われた第3回岩手郡学校保健、安全、給食研究大会は、郡内各町村からの参加者の活発な意見の交換があり、改めて小児成人病の予防は小学生、中学生の頃からの食事指導から始めないと大人になってからコレステロールが高いといってあわなくてすむことなのだと思います。小児成人病予備軍を出来るだけ早期に見つけ出すのはわれわれの務めでもあるうと思います。